社說

# 輸出陶磁器を改良すべし

陶磁器は本邦輸出重要品の一にして販路も次第に增加し二十年前僅に二十萬圓内外なりしものが近來は大抵百四十萬圓より百九十萬圓の間に上り其產地たる尾張美濃、山城、加賀、肥前、武藏等にて之が爲に衣食するもの萬を以て數ふ可し此業の盛衰よりして日本の經濟に及ぼす影響は容易ならざるものなれば我輩は世人と共にいよ〳〵之を〳〵陶磁器の輸出を加へて百九十萬圓は二百九十萬圓にも三百萬圓にも達せん事を希望するものなれども商況の實地を觀察すれば或は却て反對の傾を生ずるみとなきや頗る疑なき能はず其仔細は從來日本の陶磁器を需用する外國中重なるものは米國にして金額に積り凡八十萬圓内外なれば同國の樣子如何によりて輸出高に消長あると言ふ迄もなき所なるが近來同國の實況を聞くに今迄とは打て變り所謂日本趣器即ち彼の粟田饒京薩摩九谷淡路等のものより有田の錦手眞葛のばかし等に至る迄盡く殺價を失し僅にドライグーズストアと稱する大雜貨店にて恰も景物同樣に安賣りするによりて幾分の割引ある位の事にて四五年前迄各地に開店せる日本陶器店は大抵損耗を蒙りて閉店したる由なり之に反し同國にて追々流行を來すはロックウード(米)ドレスデン(獨逸)デルフ(和蘭)にて何れの陶器店も是等の品を陳列せざれば顧みる人あらずといふ故に日本品の輸入商も油斷ならじと思ひたりと見え數年前より之が模造に着手しロックウードの暗褐色器は出雲に眺へドレスデンの白磁に清楚なる花模樣あるもの及びデルフの青畫染付は尾張邊にて製造せしめ合衆國に輸入したる上は日本品と稱せず本物のつもりにて販賣するよしなるが武價の低廉なる爲め飛程の賣行ありといふ勿論卸店にては模造品を眞なりと胡麻化す能はざれども地方の取次屋并に小賣商人は仕入直段の安きを利とし走て日本產に就くものと知るべし凡そ此等の手段にて今日迄は輸出の減額をも免かれたるみとなれども今後數年も此まゝに維持し得べきや否や其だ憂念に堪へず前に云ふ日本品が市場に命脈を保ちたるは一ハラデルフ并ヤ博覽會後兩三年以前迄にて凡そ二十年ばかりなるが此間は合衆國が珍らしき上景氣を續けたる時にして人口の增加著しく新市街兩後の筍の如く發生したる時なれば幸に不相應の長命を享くるを得たるも今後は其割合に長き流行はあらざる可し若し今より數年の内に右のドレスデン等が日本陶器同樣需用者に飽かるゝ事もあらば如何して我輸出高を維持せしむ可きや一の問題なり或は其時には更に又他の流行品を摸造すべきのみと云はんかなれども合衆國も追々老成して沈着に赴くを以て陶磁器なぞの流行は段々其壽命と區域を狹うするみと自然の勢、爭ふ可らざる所なれば假令ひ摸造は出來得べしとするも恐くは損得相償はざるべし第一他國の名の下に我製品を賣るといふは聊かしら卑劣なゆかたゝ〳〵此際遠に着眼を一變し永久の計を立ん事最も肝要の所なる可し我等の考を以てすれば最近の如き雜飾用の物品を製するを止め實用を主とする器具例へば食器、建築用瓦の類を作り一時流行の需用に止まらずして百年の輸出を續け得べきやう心を用ひるみを肝要なれ日本品の兎角裝飾にのみ使用せらるゝは其質の脆弱なるに因るものにて其脆弱なるは原料に長石多く粘土質少なきに因るみとなれば取敢へず此弊を改めん事を工夫すべし是我輩が當業者に向て切に希望する所なり

## ○バクテリア物語(十一)

長らく横道へ外れて居ましたが扨本編コン氏所述の後を陳べます

抑もバクテリアを發見の眞ッ先き(へ連出した所の人は)ルイ パスタールで御在さす、シテ是等の有機體が理學の人里離れし山奥に埋木の世に忘られし悲慘の境界より救出されて理學專門の社會は云ふも更なり公衆一般の眼前にさへ此上なき利害を感ぜしめらるゝに至りしものは是れ誰が力ぞ全くパスタールの御蔭で御在さす蛋白質的物質は分解に對して生得の傾向あるに非ずと雖の次第を示して以て發酵の化學的理論(即ち生物の干涉を要せずと云ふリービッヒ一派の說)を首尾よく退治したる其人はパスタールであるバクテリアと稱する是等の微細なる有機體は之より大なる一切動植物の如く獨り幕常一樣の生殖方法に依てのみ存在し來るので此以前に主張されたるが如き何等生類自生論(スポンテーニアス ゼネレーション)に因て生ずるに非ずとの一事を古來始めて明々白々に說明した其人はパスタールである乳汁の酸ッぱくなると云ふが如き斯る普通の事相が其乳汁の中に成長する顯微鏡的有機體の或一定の種が或由て生ぜられるとの次第を古來始めて證明した其人はパスタールである顯微鏡的有機體の或一定の病の原因である事を鮮明し首尾よく之を避るの手段を勸告するに成功した古來第一の人はパスタールである、總べて是等の發明は急速力を以て連發に爲されたのでパスタールの名が此方面の學に關して理學者仲間の耳に入り始めて以來十年以内に斯學進歩の迅速なる、愛にみを假令ひ公衆一般の爲めとせざるも理學社會の爲めに重要なる新論題はあるなれとの次第の明白等ふ可らざるに至りました此他に尙はパスタールの爲めに大なる發明は數にも餘れども是は我々が愛に記さんとする目的外に屬するを以て遺憾ながら割愛致しますが併しながらルイ パスタールが細菌學の開祖(The Founder of Bacteriology)として思考さるゝ權利は前に陳べしだけの發明條々に據ても明白に定立されてある事實その開祖と稱せらる可き所以は彼れが始めて是等の有機體を發明し若しくは始めて之を研究したのでは云ふのではない又彼れが始めて是等有機體の發酵及び病の原因を爲す事を提議した爲めと云ふのでもない併しながら他の人々が勵氣に提議したものを顯微鏡なる試驗を以て證據立て遂に古來始めて斯學を大巨石の安きに置き斯の如くして微細なる有機體の大部なるみとがパスタールに依て說明され其だに他の人々も之に風靡されて所見を或は發揮立て又は厥擊せん爲め同じ方面に向ひ彼等の學を研究するみに成りましたが併しながら其後斯學の進歩は遠だ迅速とは申されません如何となれば細菌學的試驗は極めて困難の仕事であると云ふみと事の實際に證明されました、バクテリアは彼等自身に一團族を成さしむるに足るなぜ他の生物から明白に區別されたる有機體であると云ふ事さへ未だ認識されて御在させんでした、パスタール氏人ですら最初は之を發酵母と混同して居た位の談で千八百六十九年にホックマンが始めて之を有機體の明白なる一團族として識別して以來、有機體の此特種團族に適用されたるバクテリアの語は次第々々に多く用ひられるみとに成りました併し研究の困難は實に一通りならぬ次第で幾數年の其間唯一人のパスタールの外には苟も此論題を首尾よく揀廻して能く時の檢討に堪へる斷案に到着した者は皆無であった、爾來三十年の間に研究者と研究は兩後の筍同樣、殖る一方であったが情ない哉學問の此道筋に於ては機鋒と噴唾の外、見る可きものはなく宛然群雄割據戰國の有樣で御在ました

## ○敍任辭令

任兵庫縣神戸商業學校長 島田 重藏
任秋田縣師範學校教諭 熊井覺太郎
任兵庫縣神戸師範學校教諭 滋賀甚三郎
任石川縣師範學校教諭 園田定太郎
任山形縣米澤師範學校教諭 三浦國次郎
任山形縣米澤師範學校教諭 植元 清利
法典調査委員敎授仰付 倉富勇三郎
佛國兵本官 竹下 廣之
蒙官相續敎授仰付(以上二月十二日) 山川 戈登
非職警視廳警部官 司法省參事官
故男爵山川悟國子 山川 戈登

## ○教導團生徒の追募

陸軍省告示第二號を以て陸軍教導團の步、騎、輜重兵科生徒を追募する旨を告示せしが志願者より願書類を市町村長に差出すは四月十五日までにして學科試驗は五月廿六日より行ふ筈なり

## ○教員檢定豫備試驗

本年師範、中學、高等女學校敎員たらんと欲するもの〳〵檢定は左の日割を以て各地方鴨に於て漢籍試驗を行ふ筈なり

三月四日 算術測量、鑛物、國語(設問)、
同 五 日 國語(作文)、地文、商業、佛語、
同 七 日 代數幾何、獨語、國語(解釋)、
同 八 日 修身倫理、經濟、家事、習字、
同 九 日 物理、歷史、日本史、萬國史、筆記、
同 十 日 漢文、生理、物理、裁縫、
同 十一日 教育、化學、地誌、
同 十二日 英語、植物、農業、

## ○取引所地區の指定

農商務大臣は新に西宮商品取引所(兵庫)、山形二品取引所(山形)、鹿兒嶋米取引所(鹿兒嶋)、大阪銀取引所(大阪)の設立を認可し各其地區を指定せり

## ○米布間の海底電線布設期

布哇ホノルルのハートウエル將軍は商用にて先頃米國(渡航せしが其際當軍は紐育市に於て太平洋海底電線會社の重役スタムサー將軍に會し其計畫に付き問ふ所ありしに同會社にはモーガン氏を始め紐育市中の大資本家關係を有し其基礎甚だ固くして今後一箇年乃至十八箇月間にカフオルニア海岸と布哇との間に電線を敷設し之を第一着手として次第に步を進め日本支那濠洲より更らに特に歐羅斯迦へも延長する計畫ある由を聞得たりと

## ○廣東に反亂起らんとす

廣東省の北部と福建省の南部に於ては物情騷然として謀叛起らんとする虞あり此地方の山中に立てたる旗幟には何れも清朝に敵意を表せる文字を記し其衆少なくとも四萬ならんとの事にて之に與みせる村落中には盛に大砲彈藥等を製造するものありと北支那日々の廣東特報に見ゆ

## ○支那の國防同盟

盟を占むる或官吏は北京に支部を北京に支部を外冦を防ぐに足らざるに奏上し國防の完全して國民の愛國心を盡に關し清帝の勅諭人民の加入を奬勵

## ○佛國軍艦芝罘に

る所に據れば佛國軍艦を滿載し去月二日近來東洋の風雲も遲動活潑なりして其軍艦の北行せ

## ○犯罪

實村は伴を伴ひて比其職業がらには



らず舉動ひ居たり。きはに至り、外方をる、その樣餘念なげの〳〵如し。伴はみの「れ嬢さま、其だ失禮叡で御座りますヲ。」のやうに伺ひますが「ハイ、何だか大層精で御座りませ。」「イエ、何う致しましたます。恐れ入ります。」「サア何うか——」ながら、書子は返さいて渡す。